

三鷹の森学園



令和元年度 三鷹の森学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	周年記念事業の推進を通して、地域との協働の下に、新しい学園教育目標の具現化を図る。	
取組	<p>◎3つのミッションの実現を通じて、CS委員会のさらなる活性化を図る</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学園の10年間の歩みと成果を共有し、地域と学校との一体感を醸成するために、10周年記念事業を実施する。 2 熟議を実施し、三鷹の森学園の「次の10年」に向けた教育のビジョンを明らかにする。 3 学園サポーターやゲストティーチャー等の活躍を通して、地域の教育力と学校の教育力とのコラボレーションの充実を図る。 	
	成果	課題と改善方策
	<p>○ 前年度のCS委員会の企画を受けて周年実行委員会を組織し、CS委員会のメンバーを超えた幅広い地域人材の支援を受けて、記念事業を実施することができた。</p> <p>○ 研究協力校としての学園の研究活動に、CS委員会が大きく関わることによって、地域に開かれた教育課程の実現に向けた取組を前進させることができた。</p> <p>○ 学習サポーター、各種実行委員会、ゲストティーチャーの支援を得て、学園の教育活動の充実を図ることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 周年事業を機に学園の活動に関わった方々との関係をもとに、CS委員会の拡充を図るべきである。 ● 「カリキュラム・マネジメントの充実」「開かれた教育課程」といった、これからの時代に求められる学校教育の在り方に応じて、CS委員会が担うべき役割を再確認する必要がある。 ● 地域の教育資源のより効果的な活用を図るために、次年度はCS推進員の機能を十分に生かすことのできる仕組みづくりが必要である。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	周年記念事業の推進を通して、新しい学園教育目標に示す資質・能力の育成のために、学園として一体感のある教育活動を展開する。	
取組	<p>◎3つのミッションの実現を通じて、小・中一貫教育校のさらなる活性化を図る</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学園開園10周年の取り組みを推進することを通して、次の10年に向けた学園のビジョンを学校・地域・保護者で共有する。 2 小・中一貫教育の質の向上を図り、教育活動のさらなる充実を実現するために、三鷹市研究協力校として2年間の研究を推進する。 3 小・中間の指導の継続性及び連続性を担保し、児童・生徒の健全育成を図るとともに、適切な支援を実現する。 	
	成果	課題と改善方策
	<p>○ 教員による熟議を6月、9月、11月に、CS委員会による熟議を8月に実施して、学園の児童・生徒に育むべき資質・能力と活用できる教育資源を発達段階ごとに整理することができた。学校・地域・保護者でビジョンを共有し、三鷹市研究協力校の発表に向けても着実に準備を進めることができています。</p> <p>○ 8月に「情報交換会」を実施し、子どもの状況に関する情報交換を通して課題を明らかにすることができただけでなく、解消に向かいつつある課題も確認し、その後の支援につなげることができた。事後アンケートでは参加教員の93%が肯定的に評価している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 次年度は、今年度作成した資質・能力表に基づく、教科横断的な指導について実践的な研究を進め、その成果を11月の研究発表会で報告・提案する。 ● 時間設定や会議の運営について改善を図りつつ、「情報交換会」をより実効性のあるものとして継続する。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	主体的・対話的で深い学びの視点から学習指導の改善・充実を図り、9年間の確かな学びを実現する。	
取組	<p>○「カリキュラム・マネジメント」を主題とした2年間の学園研究に取り組み、学園の児童・生徒に育む「資質・能力」をより具体化するとともに、それらを効果的に育成するための学園版小・中一貫カリキュラムを作成する。</p> <p>○「社会の変化に対応し、自ら学び、知識・技能等を主体的に更新する力」の育成に向け、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期の有効な指導法の改善を図りながら、主体的で対話的で深い学びを実現させる。</p> <p>○「自ら問題を発見し、筋道立てて考えたり、試行錯誤したりしながら問題を解決する力」の育成に向け、「6つの学習習慣（三鷹の森学園スタンダード）」に示された学びに関する能力・態度の育成を目指す。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>○ 学園が目指す4つの資質・能力を発達段階に応じて明らかにし、次年度の実践につながる「資質・能力表」として整理した。</p> <p>○ 学園教員が1年間をかけて教科横断的な視点からの熟議を行ったことで、学園の目指す指導について共有することができた。</p> <p>○ CS委員会や学校図書館司書も含めた熟議や研究協議を実施したことで、三鷹の森学園として活用すべき教育資源や、共有ツールの活用について検討を進めることができた。</p>	<p>● 研究発表会における授業公開・実践報告を通して、三鷹の森学園が目指す、指導の在り方を具体的に明らかにする。</p> <p>● 学園研究を一過性のものとしないうちに、2年間の研究をもとに「学園版小・中一貫カリキュラム」を完成させるとともに、「研究発表会後」の授業や特別活動の指導、学校図書館活動に研究成果を位置づけ、全教員が日々の授業の中で検証・発展させていく。</p>

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	あらゆる教育活動を通して、他者との関わりを大切にし、協働して課題解決に取り組もうとする意欲を育む。	
取組	<p>○「健全育成」と「教育支援」の充実を目的とした小・中間の情報交換・情報共有を充実させる。</p> <p>○「多様な人々との対話や協働を通じて、新たな価値やよりよい社会を創造していく力」を育成するために、地域人財や学習サポーターを活用し、「人間力」「社会力」を育成する。</p> <p>○「学園生活指導計画」に基づいた一貫した指導方針のもとに、人や社会とかかわる活動や、社会貢献活動等を通して自己有用感や規範意識を高め、「生きる力」の育成を進める。</p> <p>○三鷹市いじめ防止対策推進条例や各校のいじめ防止対策基本方針等に基づき、「いじめを見逃さない学校」「いじめに迅速に対する学校」を目指す。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>○ 中学校進学後の生徒の状況も踏まえた「情報交換会」により、学園の生活指導や健全育成の取組について、9年間を見通した視点を共有することができた。</p> <p>○ 小学校においては年間を通して学習サポーターやゲストティーチャーを計画的に活用したことで、学習活動の安全と、活動の広がりを実現することができた。</p> <p>○ 「児童会・生徒会交流会」などの機会を通して、子ども自身が学校生活の課題に目を向けたり、解決・充実に取り組もうとする意識を向上させることができた。</p>	<p>● 各校校内での情報共有や、校内委員会、SCとの連携なども視野に入れ、健全育成の観点から「情報交換会」の充実を図る。</p> <p>● 学習サポーターの仕組みについては新たに配置されるCS推進員機能を活用しながら、年間指導計画に基づいた積極的な活用を進める。</p> <p>● 自己有用感・自己肯定感を育むために、CS委員会とも連携を図りながら児童・生徒が他者や地域社会と関わる機会をより充実させる。</p>

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	自らの健康・体力の保持・増進に努め、望ましい生活習慣を身に付けた児童・生徒を育成する。	
取組	<p>○基本的な生活習慣の確立を目指すとともに、体力・運動能力調査の結果等を分析して指導改善を図るとともに、中学校教員による体育の乗り入れ授業を積極的に実施し、体育授業を更に充実させる。</p> <p>○各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動並びに教育課程外である部活動等を含む全教育活動の中で、「オリンピック・パラリンピック教育」の取り組みを年間35時間程度実施する。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>○ 基本的な生活習慣改善への啓発や、オリンピック・パラリンピック教育の取り組みから、児童・生徒の検討や運動に対する関心・意欲を高めることができた。</p> <p>○ 中学校から小学校体育への乗り入れ授業によってきめ細やかな指導が実現され、児童も中学校での発展的学習への見通しをもちながら学習意欲を高めることができた。</p> <p>○ オリンピック・パラリンピック教育については、3校それぞれで発達段階に応じた計画を実施し、スポーツや健康、伝統文化や異文化、ボランティアなど幅広い分野で児童・生徒の関心を高めることができた。児童や教員の肯定的評価が得られ、運動への興味・関心を高めることができた。</p>	<p>● 体力・運動能力調査の結果では、持久力や柔軟性、筋力等に課題があることが分かったため、一校一取組、一学級一実践の内容について改めて改善を図る。</p> <p>● オリンピック・パラリンピックで学んだことを、そのときだけの感動や興奮で終わらせずに、日常生活に立ち返らせていくことが課題である。豊かな運動習慣や、人権感覚の育成など、幅広く教育活動と結び付けた実践を今後も工夫していく必要がある。</p>

検証項目	6 特色ある教育活動	
目標	地域の人財や教育資源を生かした取組を通して、学園生としての誇りや、将来への希望をもった児童・生徒を育成する。	
取組	<p>○CS委員会での報告、承認並びに協議の活性化を通して、学園運営の充実を図るとともに、小・中一貫教育校としての一体感をもたせ、地域を愛し、環境や文化を継承し発展させようとする児童・生徒を育成する。</p> <p>○学園の教職員共通の理解の下に保護者・地域と一体となって「学園あいさつ運動」を実施する。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>○ 学園開園10周年を好機と捉え、初めての学園集会の実現や、地域の実行委員会による様々な記念事業の展開、また、3校教員によるプロジェクトチームの活動など、様々な取り組みの実施を通して学園の一体感を向上させることができた。</p> <p>○ 保護者や地域の協力や、児童・生徒の主体的なかかわりを生かしながら、3校共通の取組として「学園あいさつ運動」を実施することができた。</p>	<p>● 学園集会の定例化など、10周年を機に育まれ始めた学園の一体感を来年度以降も継続・充実させていく必要がある。</p> <p>● 「学園あいさつ運動」を始めとした保護者・地域との協働活動についても、「次の10年間」を見据えて、取組の充実や新たな展開を考える時期にある。</p>

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	教職員の働き方の改善・適正化を通して、学園の教育活動の充実・向上に努める。	
取組	<p>○SSSや校務支援システム、地域の教育力の導入などの取組を推進するとともに、教員の意識改革を図り、在勤時間の縮減を図る。</p> <p>○週休日である土曜日、日曜日については、連続して業務に従事することがないように、どちらか一方は必ず休養できるようにする。</p> <p>○ライフ・ワーク・バランスを考え、各校において「定時退勤デー」「ノー残業デー」等を設定し、ムリ・ムダ・ムラのない、メリハリのある業務を目指す。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>○ 時間に対する教職員の意識改革を進めたことで、タイムマネジメントをする教職員が増え、業務の効率化による勤務時間数の減少傾向が一層見られるようになった。</p> <p>○ 保護者や地域に対して説明することで、学校における働き方改革の推進についての理解も深まってきた。</p> <p>○ 校務処理の効率化や会議の効率化・精選化に努めたことや、ガイドラインに沿った休養日の設定、スクールサポートスタッフ（SSS）の導入の効果により、教員の実働時間は減少傾向にある。</p>	<p>● 依然として遅くまで残ったり、休憩時間は実質取れていなかったりなどの課題がみられる。実態をフィードバックし常に意識を高め、働き方改革を進めていく必要がある。</p> <p>● 保護者の一層の理解と協力を図りながら、次年度はルールの徹底を目指す。</p> <p>● 教員自身が具体的に業務の効率化を図るなど、自ら業務改善に努めることが課題である。実効性をもった具体的な取組を推進する。</p>

令和元年度 三鷹の森学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	<p>○ 10周年記念事業を通して、学園の児童・生徒に「学園生」としての一体感を育むことができたのと同時に、地域からの新たな支援を得ることもできた。</p> <p>○ 学園研究会とCS委員会とのコラボレーションを通して、学園として育成を目指す児童・生徒の資質・能力を明らかにすることができた。</p> <p>○ 学習サポーターやゲストティーチャーの活躍により、教育活動の幅が広がり、また、質的な充実を図ることもできた。</p> <p>○ 小・中間の情報交換会の新規実施により、児童・生徒の健全育成に向けた連携強化について教員の意識が向上した。</p>
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	<p>● 研究協力校としての発表年度となるため、今年度明らかにした「資質・能力」を着実に育むための実践を構築するとともに、やはり今年度明らかになった地域の教育資源の効果的な活用を実現する必要がある。</p> <p>● 10周年記念事業を機に高まった学園生の一体感を継続・深化するための取組が必要である。</p>
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
	<p>◇ 学園の教育活動と地域の教育資源との適切かつ効果的なマッチングを図るために、新たに配置される予定のCS推進員のコーディネート機能を活用する。</p> <p>◇ 学園の児童・生徒の交流事業として、今後も継続するべきもの、時期や方法を工夫するべきものなどについて、学園コーディネーター会や学園生活指導部、特活・進路部などの組織を通して次年度中に検討・整理する。</p>